

「山野草」



三塚 圀彦

明治コンサルタント仙台支店

皆さんは夏場の日当たりの良い土手などに、無数の淡いピンクの小さな花をラセン状に付けているネジバナ（モジズリとも呼ばれます）が、ラン（蘭）の仲間であることをご存じですか。

私が草花に興味を持ち始めたのは今から十五年ほど前になります。

初めはチュウリップやダリアなど一般的な園芸種を楽しんでいましたが、次第に興味の対象は山野草、とりわけ日本の野生蘭や高山植物に絞られました。

かくて田中澄江の「花の百名山」を読み高橋治が編んだ花の句集に親しみながら、現場を歩くときは地層よりも草花に目を光らせ、園芸店があれば必ず立ち寄るなど、数年を経ずしてシュンラン（春蘭）エビネ

ラン（海老根蘭）フウラン（風蘭）など三十種以上のラン（蘭）を初め百点以上の山野草を集めて一人で悦に入っていました。

が、近年次第にその蒐集癖は収まってきています。

その訳は野山に自生している山野草が目に見えて減ってきていることや、近年の山野草ブームの舞台裏にウチュウラン（烏頂蘭）に代表されるように稀種を貴種として珍重して草花を楽しむよりも投機の対象とする気配が強くなったことにもありますが、何よりも山野草を本来の自生地とまるっきり異なった環境である低地の庭先で育てることに無理があるように思われて来たからです。

今は専らムラサキツユクサ（紫露草）など人間の生活圏中でも生息しているものを庭に置き、山野草は休日にカメラを携えて自生地に赴いて写真に撮ることで愉しんでおります。

仙台市のごく近郊に、春の雪解けを告げるフクジュソウ（福寿草）、それに続くカタクリ（片栗）やキクサキイチリンソウ（菊咲一輪草）の群生地を見つけました。

その場所を口にするつもりはありませんが、是非にと謂われれば喜んでご案内いた

します。

太宰治の「富嶽百景」に月見草として登場し、夏の夕に黄色い花を咲かせるマツヨイグサ（待宵草）ではなく、夕方はあくまで楚々として白く翌朝に淡紅色となつて一夜の命を了える花を付けるツキミノウ（月見草）を栽培していますので、ご希望の方に種子をお頒けいたします。[週間朝日百科・植物の世界・第43号に載っています]

それにしても我々のご先祖様がお見事としか言い様のない観察眼を発揮してその想いを表意文字でもある漢字に込めた草花の名を、カタカナで書かなければいけないとば無味乾燥これに尽きると思いませんか。

もっとも中には、イヌノフグリとかヘクソカズラのような漢字では書き辛いものもあるのは確かですが。

最後に、何故あなたは草花に興味を持ったんですかという問いに、職場の花に幻滅したからとは口が避けても言いますまい。

## プロフィール

生まれ：昭和19年、中華民国上海市

育ち：宮城県栗原郡一迫町

学校：築館高校から秋田大学へ

昭和42年 鉱山学部鉱山地質学科卒業

会社：昭和44年 明治コンサルタント株式会

社入社

平成6年12月 同社長野支店より仙台

支店へ

好きなこと：酒飲みの相手をする事・釣り

好きで無いこと：カラオケ・ゴルフ

家族：妻・長男（高2）

